

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」北上校		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 12月 13日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 11月 29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者支援の充実。	他事業所にはないオリジナルの企画・運営を行っています。定期的にファミカフェを開催し、家族向けの勉強会も実施しました。	保護者様へのアンケートを継続的に実施し、ご意見を反映しながら、より充実した支援を提供できるよう取り組んでいます。
2	地域とのつながり。	例年、近隣商店街の方（青果店）にご協力いただき、地域イベントを実施しています。	協力いただける地域のつながりをさらに増やし、活動を知ってもらう機会を広げながら、イベントの幅を広げていきます。
3	子育て経験豊富な職員が多い。	子育て経験や保育士経験のある職員が多く、支援だけでなく、保護者様に寄り添った傾聴や面談を行うことができます。	経験豊富な職員が中心となり、後輩職員の育成を進め、支援体制の質向上を図ります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境	壁や床が薄いため、足音や声の大きさ、人の出入り、車の出入り（排気ガス）による騒音などの指摘があり、今年度は時間の制限や送迎方法について、利用者様や保護者様に多くのご協力をお願いしました。	・利用者様と保護者様へ丁寧な説明とお願いを行う。 ・職員一人ひとりが時間を守り、声量や生活音に十分注意しながら業務に取り組む。
2	職員の専門性	保育士は数名在籍していますが、作業療法士・理学療法士など、専門性に特化した職員はおりません。	県を越えて他校舎の専門職員へ相談し、事例検討の機会を設けるなど、療育面で専門的な助言を受けながら支援の質向上を図っていきます。
3	教材（ワーク）のバリエーションが少ない	ワークが開所当初からほとんど変わっていないため、各指導員がオリジナル教材を作成して対応しています。インターネットの普及や、求められるソーシャルスキルの多様化が進む中で、教材の見直しと改善が必要だと感じられます。	お子さま一人ひとりのニーズに応えられるよう、教材の充実を図っていきます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「クラ・ゼミ」北上校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 35

回収数 35

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	32	3			限られたスペースを仕切りなどを使って有効活用していると思います。	ありがとうございます。 限られた環境の中ではありますが、今後も確保してまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	32	1		2		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	28	6		1	ごちゃごちゃしておらずシンプルで、子どもたちも集中して活動できているようです。	視覚的な刺激が入らないよう、これからも配慮してまいります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	34	1				
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	33	2			毎回指導員さんごとに違うプログラムが用意されていて、子供も楽しみにしています。	個別支援計画と専門的支援実施計画をもとに、これからも必要な支援を検討していきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	35					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	35					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	34	1				
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	34	1				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	34	1				
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	14	6	7	8		
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	35					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	35					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	35					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	34	1				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	34	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	34	1				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	31	1	2	1		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	35					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	35					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	34			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	34			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	34			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	34			1	災害や熊への対応を定期的に教えて下さり覚えたことを忘れず身につけていると感じます。	年度ごとに災害の対象が変わってくると考えられます。スピード感を持って反映できるよう努めてまいります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	34			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	31			4		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	35					送迎時の時間や予約など保護者様にご協力いただき、安全に配慮した運営を行うことができました。ありがとうございます。保護者様と情報共有を行いながら、お子さまの好きなこと、得意なことを強化し、苦手を補えるよう、一人ひとりに合わせたプログラム作成と実施を行います。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	34	1			・スポ少が忙しいので回収を減らすことを提案したことがあります。こちらの回数は減らしたくないそうです。いつも楽しく通っております。 ・学校が疲れると休みたいということがあります	
	29	事業所の支援に満足していますか。	35					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「クラ・ゼミ」北上校					公表日	2026 年    2 月    14 日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		限られたスペース（1フロア）のためパーティションで区切って使用している。					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		個別で対応不可な場合は、利用人数を調整している。					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	階段上部にベビーゲートを設置し事故防止に努めている。					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃の実施とこどもの特性に合わせたブース配置を毎日話し合い・実施している。					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	1フロアのためパーティションで区切って使用している。					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日々のミーティングに加え、各イベントや個別支援などの会議を事前に日程を調整し実施している。					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		Googleフォームを利用したアンケートを適宜実施している。					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々のミーティングに加え、各イベントや個別支援などの会議を事前に日程を調整し実施している。					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		会社として第三者評価を利用していない。					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		自立支援部会などから情報をもらい、外部研修の機会がある場合は、可能な限り参加している。Zoom利用の研修も増え、機会を頂くことが増えた。					
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		紙媒体でお渡しできる場合は都度プログラムをお渡しし、出来ない場合は口頭またはLine等を利用しプログラムを伝えていきます。					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		保護者とのアセスメントや担当相談員とのモニタリングなどを利用し、作成している。					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画作成の際は必ず会議を開き、意見交換を行っている。					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画作成の際は必ず会議を開き、意見交換を行っている。お子さま一人ひとりのディスカッションを作成し、日々の変化を共有するようにしている。					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○							
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		通院時の情報提供や担当相談員とのモニタリング、支援経過報告書の提出を、保護者様の希望に沿って行っている。					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		普段は個々でプログラムを立てるが、イベントなどの時はチーム立案を行っている。	日々の立案を全てチームで共有することは難しいが、行う内容の確認を相互で行っている。				

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		療育内容が固定化しないよう、日々の記録を指導員が都度確認し取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		基本個別支援で実施、イベントを利用し希望者で小集団療育を実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○	ミーティングを行い、日々確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		18時に療育がない場合は行うことができるが、就業時間ぎりぎりまで支援を行うため振り返りは難しい。その場合は次の日や共有ネットワークを使って情報共有を行っている。	保護者様に送迎時間を守っていただくよう掲示や広報で周知を行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援の記録の他に、ディスカッションを利用した個々の日々の変化や共有事項の確認を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月以内に担当相談員、保護者と見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」意識し取り組んでいる。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		療育の順番を自分で決めたり、プログラムに係る時間を想定したり、時間の感覚をつかむ練習を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的には児発管が参加するが、よく理解している指導員が参加する場合もある。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		市の保健師や相談員と随時連絡を取り合っている。保護者様の希望があった場合は支援経過報告の提出や教育相談に同席した。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎を行っていない為、学校と直接は行っていないが、保護者様を通じて行事予定や下校時刻の確認を行った。	継続していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		園との直接の情報共有は少ないが、相談支援員を通じて情報共有している。また、保健師を通じての情報共有もある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	対象者無し	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターの役割を北上市こども療育センターが担っており、研修などの機会を頂いている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	行っていない	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		主に管理者が参加。場合に応じて指導員も参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々のフィードバックを行い、時間が足りない場合は家族支援の利用を促している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		全6回、ペアレントトレーニングを実施。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時説明し、同意を頂いている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリング時にアセスメントに加え、家族支援を提案し意向確認を行っている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		6か月以内に必ず確認・署名による同意をもらっている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		基本予約制で家族支援を実施。対応可能な場合はその場で行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		同じ境遇にある保護者様同士の交流を目的として「ファミカフェ」を実施。また、「家族のための勉強会」「父のための勉強会」「リラックスヨガ＆おしゃべり会」を企画・実施。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情解決研修会に参加。小さな意見も流さずに事業所内で確認するよう努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		月に1度広報の発行。Instagram・X・ブログを利用し発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		イベントなどで外部へ行く際はさらに留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		口頭だけではなく必ず文面が見えるよう紙面やLineを利用し伝達を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域で年に一度開催される福祉展に作品を出品したり、教材紹介をしたりしている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		年1回以上の研修を行い、月に一度、防災訓練の実施を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		月に一度避難訓練を実施している。また、障害者支援施設等災害時情報共有システムを利用した防災訓練を実施。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		持病を持つお子さまに関しては事前に確認し、緊急連絡先の確認やその日の体調を口頭で確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		おやつ提供がないため行っていない。	イベントで配布するお菓子などがある場合は都度保護者に確認し、アレルギーのあるご利用者様に配慮し内容を考えるようにしている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		年1回以上の研修を行い、月に一度、防災訓練の実施を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に説明を行い、月に一度の防災訓練で実施内容を伝えている。緊急連絡先と優先順位を毎年確認している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		都度行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年1回以上の研修を行い、なるべく療育の場が密室にならないようにしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時説明し、同意を頂いている。	